

ロタウイルスワクチン

※ロタウイルスワクチンは現在2種類流通しています。当院では一価ワクチン（ロタリックス）を主に使用していますが、他院で五価ワクチン（ロタテック）を接種されている方には五価ワクチンの接種も行います。一価と五価のワクチンの互換性や、取り違えて交互に接種した場合の有用性や安全性はわかっていません。

【ロタウイルス感染症について】

ロタウイルスは衛生状態に関係なく世界に広く分布し、感染者との接触や排泄物に含まれるウイルスが口に入ることにより人から人へと感染します。ロタウイルス胃腸炎は突然の嘔吐に続き白っぽい水のような下痢をおこします。しばしば発熱を伴い回復には1週間程度かかります。殆どの場合は自然に回復しますが、時に脱水、痙攣、腎不全、肝機能障害、脳炎脳症などを合併することがあります。重症急性胃腸炎の原因としてはロタウイルスが最も多く、受診した人の10人に1人が入院を必要とするといわれています。

生後3カ月～24カ月に発症することが多く、初感染時に重症化する傾向があります。

【ロタウイルスワクチンについて】

ロタウイルスを弱毒化してつくられた生ワクチンです。

2回または3回の内服によりロタウイルス胃腸炎の重症化を予防し、効果は3年ほど続きます。

ロタウイルスのうち人に感染し胃腸炎の原因となるものには5タイプあります。ロタリックスはそのうちもっとも一般的なタイプをもとに作られています。接種により他のタイプの免疫も得られるため、五価のロタテックとの効果に違いはありません。

副反応としては不機嫌、下痢、咳鼻汁、などがあります。

また、ロタウイルスワクチン接種により腸重積症の発生リスクがわずかに上昇する可能性があるとしてされています。接種後1カ月（特に1週間）は腸重積の症状にご注意ください。

不機嫌・啼泣を繰り返す、顔色が悪い、嘔吐を繰り返す、イチゴジャムのような血便、おなかの張りが見られたなどの場合は速やかに医師の診察を受けてください。

腸重積の発症を高める可能性のある先天性消化管障害（メッケル憩室等）や、腸重積の既往があるお子さん、重症複合型免疫不全のあるお子さんは接種をうけることができません。

※接種後一週間はウイルスが便中に排泄されます。それにより胃腸炎を発症する可能性は低いですが、家庭内に免疫異常のある方がいる場合はおむつ交換等のあと手洗いを徹底するなど、注意してください。

【接種方法】 ワクチン（シロップ）を内服します。（ロタリックスは1.5ml、ロタテックは2ml）

※内服前後30分は嘔吐を予防するため授乳をひかえてください。

【接種時期】 生後6週0日からロタリックスは23週6日まで、ロタテックは31週6日まで

【スケジュール】 4週間以上あけてロタリックスは2回、ロタテックは3回接種します。

1回目の接種は生後14週6日までに行うことが推奨されています。

※当院のおすすめするスケジュールでは、生後2カ月から接種を開始しています。

【接種費用】 2020年10月1日から定期接種になります。

※2020年7月31日以前に出生された児は任意接種のため自己負担になります。

【持参するもの】 定期接種用予診票（体温以外の項目をあらかじめ記入しておいてください。）

母子健康手帳